

## 京急グループ総合経営計画について

京急グループでは、事業環境の変化に対応し、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指すため、当社グループの一大プロジェクトとなる品川駅周辺開発を見据えた、20年間にわたる「京急グループ第18次総合経営計画」を2016年3月に策定し、推進しています。本計画では、2035年度を目標年次として長期ビジョンと長期経営戦略を見直すとともに、長期ビジョン実現に向けた最初のステップとして「中期経営計画(2016～2020年度)」を策定しています。

### 京急グループ総合経営計画の体系



## 1 グループ理念

### ■ 経営理念

- 京急グループは、都市生活を支える事業を通して、新しい価値を創造し、社会の発展に貢献する
- 京急グループは、伝統のもとに、創意あふれる清新な気風をもって、総合力を発揮し、社業の躍進を目指す
- 京急グループは、グループの繁栄と全員の幸福との一致を追求する

### ■ 行動指針

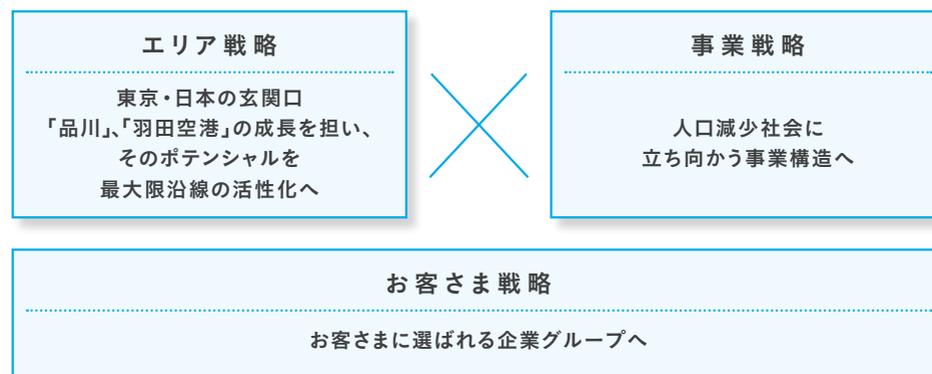
- 安全・安心を最優先し、感謝と誠意をもって、顧客の信頼を獲得しよう
- たえず研鑽し、進取の精神をもって、可能性に挑戦しよう
- 誇りと責任をもち、相互の信頼を深め、仕事に取り組もう

## 2 長期ビジョン[2035年度に目指す将来像]

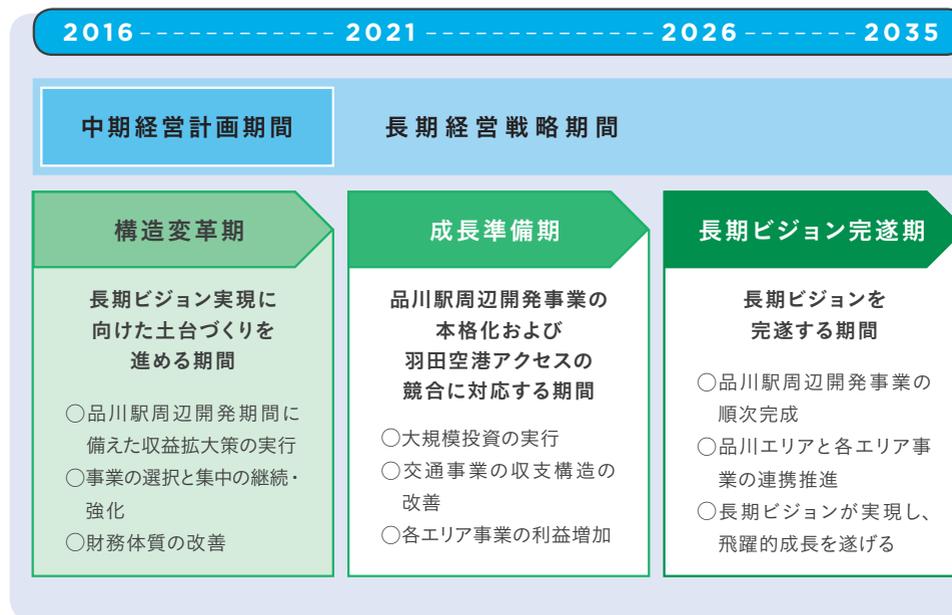
品川・羽田を玄関口として、  
国内外の多くの人々が集う、豊かな沿線を実現する

## 3 長期経営戦略

### 基本方針(3つの柱)



### ステップ

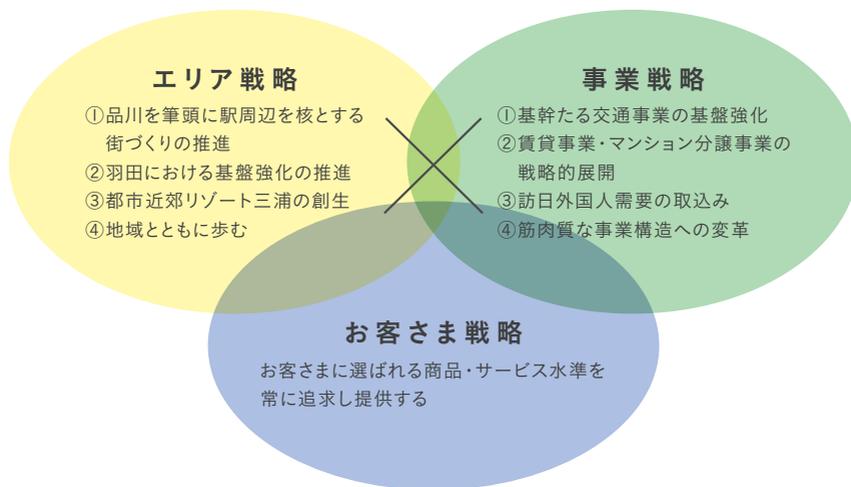


#### 4 中期経営計画(2016~2020年度)

中期経営計画期間は、「構造変革期」として位置付け、オリンピック・パラリンピックに向けた好景気を背景に、企業体質の変革に向け、事業再編やお客さま志向の徹底に取り組むとともに、各エリア事業の取り組みを強化し、長期ビジョンの実現に向けた土台づくりを進めます。

不動産賃貸業については、賃貸オフィスや賃貸マンションを新規取得、レジャー事業については、ビジネスホテルを新規開業するなど、引き続き成長投資を推進してまいります。一方、不要な資産の売却を行うなど事業の選択と集中を進め、2020年度以降に本格化する品川駅周辺開発に備え、事業基盤の強化に努めてまいります。また、今後の事業環境を見据えた他社との事業連携や新規事業等への展開を行うとともに、グループ会社再編を含めた業務推進体制を再構築するなど、経営計画の実現に向けた推進体制の強化を図ってまいります。

#### 重点テーマ



#### 5 目標指標

品川駅周辺開発の本格化を前に、キャッシュ創出力の向上と、大規模投資に備えた財務体質の改善を重視し、以下の4指標を目標指標としました。

#### 2020年度



#### 6 京急ism(イズム)～京急グループが求める人材像～

「京急ism」は、京急グループが培ってきた強みを正しく認識しつつ、さらなる発展に向けて、すべての従業員が理解し、共有すべき価値観であり、挑み続けるべき目標として掲げられている人事ビジョンです。

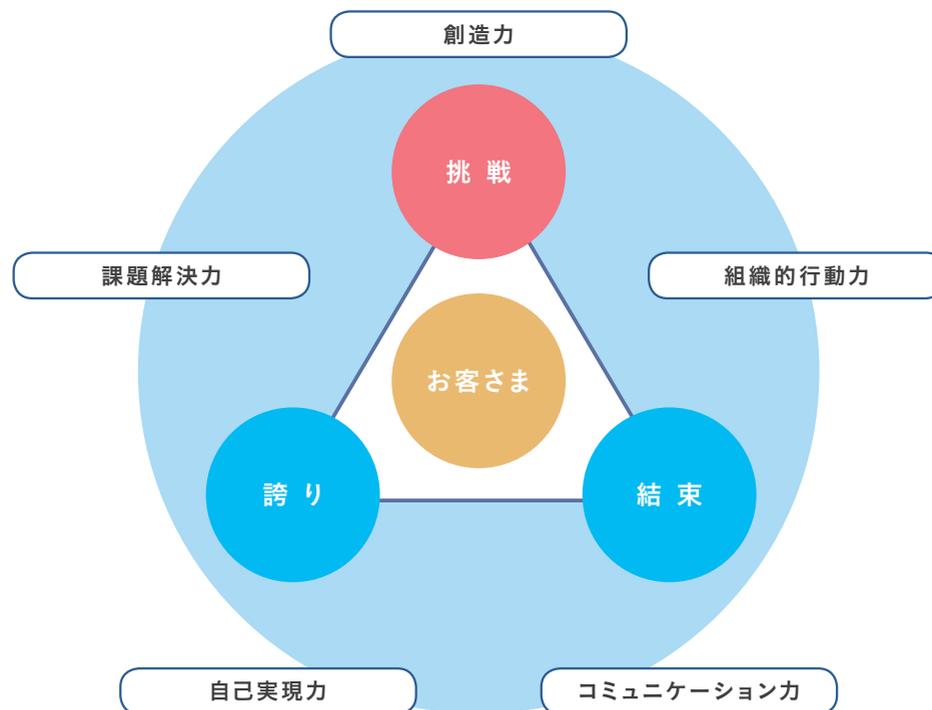
特に京急グループ総合経営計画において「構造変革期」と位置付けられる中期経営計画の推進にあたっては、「挑戦」を重点キーワードとして、徹底したお客さま志向のもと、グループ全体が一丸となり、新たな可能性に挑み、新しい価値を創造する人材集団を目指します。

また、京急ismの実現に向け、「5つのチカラ」をグループ共通の人材育成方針としています。

#### 人事ビジョン【京急ism】

- 誇り** 一人一人がプロフェッショナルとして自律し、課題解決意識をもって業務に取り組む
- 結束** 目的・方向性を共有し、グループの連携力を最大限に活かして業務に取り組む
- 挑戦** 新たな可能性に挑戦し、お客さまに新しい価値を提供し続ける

#### 人材育成方針【5つのチカラ】



## 品川を筆頭に駅周辺を核とする街づくりの推進

### 品川駅周辺での事業展開

京急グループは、品川駅周辺に約60,000㎡の土地を保有しており、「品川駅」や「SHINAGAWA GOOS」をはじめ、ホテル・オフィス・商業施設などさまざまな事業を展開しています。

#### 品川駅のアクセスの利便性



#### ホテル事業

- 京急EXホテル 品川／高輪  
高輪口から徒歩3分、2館あわせて1,000室以上の客室数を誇ります。
- 京急EXイン 品川・泉岳寺駅前  
2016年6月、都心や羽田空港アクセスに便利な京急線・都営浅草線泉岳寺駅前にオープン。

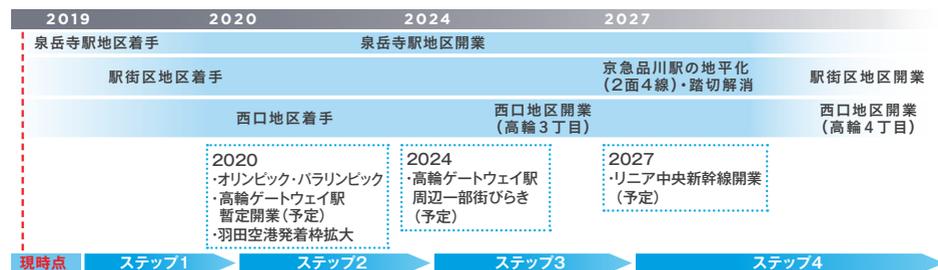
### 京急品川駅および周辺の開発

品川駅周辺の発展を担う事業者として、国際交流拠点化に向けた開発事業を推進。品川駅が持つポテンシャルを最大限に活用し、新しい街の創造に向けて着実に進展しています。



※ Google Maps から引用し当社作成

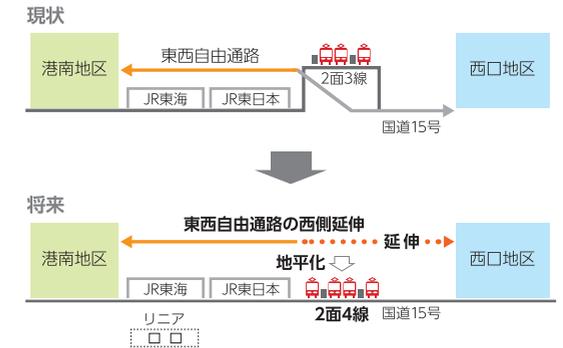
#### 品川駅周辺開発事業 開発スケジュールイメージ



### ●京急品川駅の地平化(2面4線)

品川駅は、利用客の利便性向上を図るため、現在高架にある2面3線のホームを地平レベルに配置し、あわせて2面4線化により利便性向上および空港アクセス強化を計画しています。品川駅を地平化することで、品川駅東口から東西自由通路を延伸させて国道15号を越えて西口地区へとつなぐ歩行者ネットワークを構築することが可能となり、乗り換えの利便性や安全性が向上した魅力的な駅への再編に取り組みます。

### 京急品川駅の地平化(2面4線イメージ)



### ●品川第一踏切道を含む3か所の踏切解消

京急品川駅の南方にある品川第一踏切道を含む3か所の踏切は、現在京急本線で都内に残る最後の踏切です。鉄道輸送の安全性の向上を図るだけでなく、品川駅南側の道路交通を円滑にして地域の東西連絡性を強化・改善させるべく、この踏切の解消を目指します。

### ●「西口地区」の開発(案)

西口地区では、地域が持つ歴史や緑豊かな空間との調和をとりながら、ビジネス拠点の形成の場となるオフィスやMICE空間、時間消費型の商業やホテルなどによる多様な都市機能の集積を図ることで、品格のある新たなフラッグシップエリアの実現を目指します。



※品川駅から高輪3丁目方面を臨む  
※パースはあくまでイメージであり、実際とは異なる場合があります

### ●「駅街区地区」の開発(案)

駅街区地区においては、駅直上・直結という抜群の利便性を生かし、オフィス・商業・ホテルなどの複合施設開発に加え、国道15号上空についても、国道上空デッキを介する交通結節機能や賑わい広場の創出を官民連携整備により目指します。



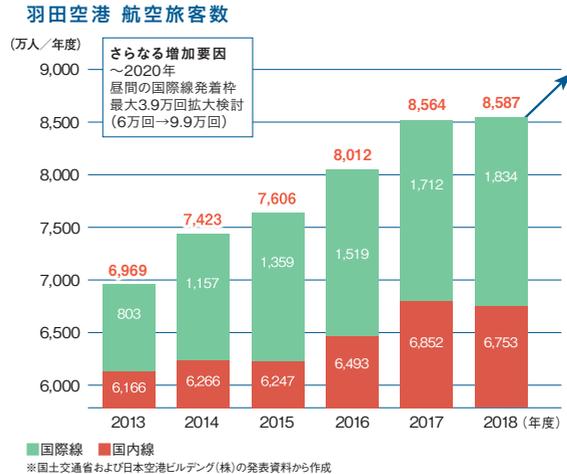
※高輪3丁目地区から品川駅方面を臨む  
※パースはあくまでイメージであり、実際とは異なる場合があります

## 羽田における基盤強化の推進

### ■ 羽田空港における航空旅客数の増加

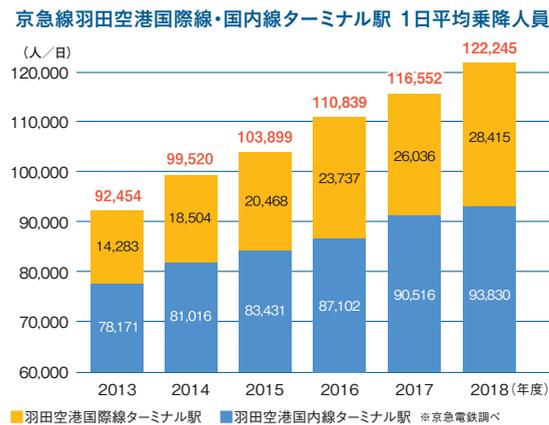
羽田空港は、国内48都市、世界18か国・地域の30都市とネットワークを形成しており、2018年度の国際線・国内線をあわせた年間航空旅客数は、過去最高を記録しました。

2020年までに飛行ルートを変更することで、国際線の発着回数を年3.9万回増やすことが検討されており、今後もさらなる旅客数の増加が見込まれます。



### ■ 拡大する京急線需要

航空旅客数の増加や、ダイヤ改正で羽田空港アクセスを向上させたことにより、2018年度駅別1日平均乗降人員では、国際線ターミナル駅が28,415人(前年比9.1%増)、国内線ターミナル駅が93,830人(前年比3.7%増)を記録し、国際線・国内線ターミナル駅の合計では、122,245人(前年比4.9%増)を記録しました。



## ■ 羽田空港アクセスを担う

### 空港リムジンバス

- 羽田空港から各地へ、**50路線運行**
- 「深夜早朝アクセスバス」は**深夜早朝便の飛行機に対応**



## 羽田空港

### 京急線

- 品川～羽田空港国際線ターミナル駅間**最短11分**
- 品川方面、横浜方面とも直通電車を**10分間隔**で運行



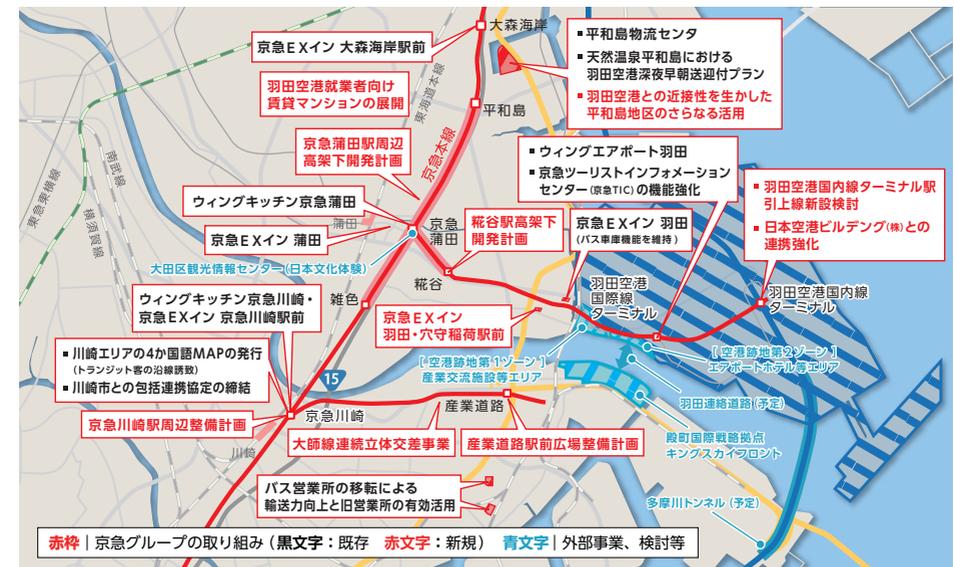
### タクシー

- 東京都と神奈川県内の対象エリアで、羽田空港アクセスを定額料金で利用できる「**定額制タクシー**」を導入



## ■ 羽田空港周辺エリアにおいて事業を拡大

羽田空港周辺で、ホテルや商業施設などさまざまな施設を運営しております。2017年10月には天空橋駅付近に「京急EXイン 羽田」を開業、2019年8月3日には穴守稲荷駅付近に「京急EXイン 羽田・穴守稲荷駅前」をリブランドオープンするなど、羽田空港へのアクセスに優れたビジネスホテル事業を展開しています。また、羽田空港跡地第1ゾーンの開発事業にも参画するなど、羽田空港周辺エリアにおいて積極的な投資を推進し、羽田空港需要を余すところなく取り組んでいきます。

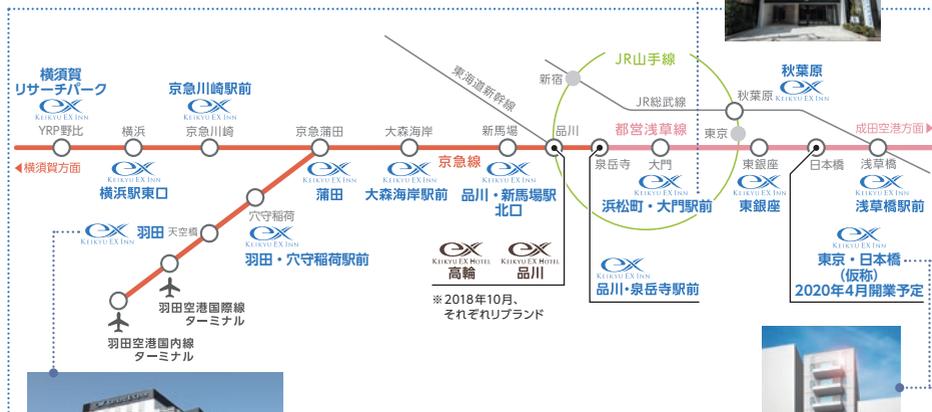


## 「京急EXホテル」・「京急EXイン」の2ブランドで多店舗展開

2007年に開業した京急イーエックスインは、羽田空港や品川駅への高い交通利便性を強みに、宿泊特化型ホテル「京急EXホテル」、「京急EXイン」の2つのブランドでチェーン展開しています。

2019年3月28日に「京急EXイン 浜松町・大門駅前」をオープン、2019年8月3日には羽田エリア2店舗目となる「京急EXイン 羽田・穴守稲荷駅前」をリブランドオープンし、中期経営計画で掲げる「2020年度3,000室体制」を前倒しで達成しました。現在15館3,050室体制、全館で高稼働率を維持しており、2020年4月には「京急EXイン 東京・日本橋」の新規オープンを予定しています。

ビジネスホテルを利用されるお客さまは、これまでの国内出張ビジネスに加え、インバウンドやアップービジネス、女性グループやシニア世代の国内レジャー需要など、より一層の多様化が進むとともに、ホテルで過ごす時間に更なる付加価値を求められるお客さまも増加しています。「京急EXイン」と、従来のビジネスホテルからワンランク上の「京急EXホテル」の2ブランド体制で、多様化する宿泊ニーズを取り込み、「安全」「安心」「感動」の提供をテーマに、つねにお客さまに選ばれ、喜ばれるホテルを目指します。今後も、京急沿線や都心部、そしてますます発展していく羽田エリアにおけるホテル事業基盤の更なる強化を展開するとともに、羽田空港への利便性に優れた国内主要都市への出店を積極的に進めていきます。



## 都市近郊リゾート三浦の創生

三浦半島は都心部の近郊に位置しながら、美しい自然に囲まれています。京急グループでは、鉄道・バス・タクシーなど三浦半島の交通網の連携強化を図るほか、展開しているリゾートホテルから水族館、ヨットハーバーまでさまざまな事業を通じて、観光の活性化などを推進します。

### ● レジャー施設

- 葉山マリーナ
- 京急油壺マリンパーク
- 油壺京急マリーナ



### ● ホテル

- 観音崎京急ホテル・SPASSO
- ホテル京急油壺観潮荘
- 城ヶ島京急ホテル



### ● おトクなきっぷ

- みさきまぐろきっぷ
- よこすか満喫きっぷ
- 葉山女子旅きっぷ
- 三浦半島 1 DAYきっぷ・2 DAYきっぷ



## 地元自治体と協力した認知度向上への取り組み

### 「YAMAP」アプリで三浦半島の山歩きプランを提案

京急電鉄は、新規事業創出プログラム「KEIKYUアクセラレーター」の採択企業である(株)ヤママップと連携し、オフラインで使えるGPSアプリ「YAMAP」を活用した、三浦半島の山の魅力の発信を進めています。その一つとして、(株)ヤママップと共同で制作した「三浦アルプス」、「大楠山・三浦富士」の2コースのマップを特設WEBサイトおよび「YAMAP」アプリ上で配信し、京急グループの電車、施設と「YAMAP」アプリを使った新しい山歩きプランを提案しています。



## 三浦半島の観光情報サイト「三浦半島の小さな旅」をオープン

2019年3月29日に、三浦半島の観光に便利な情報や、京急グループが実施するイベント情報などを発信するWEBサイト「三浦半島の小さな旅」を開設しました。ホリデー(株)が提供する、おでかけ・旅行のスポット・プランを気軽に検索できるサービス「Holiday」とも連携し、三浦半島のおでかけプランも発信。お客さまが実際に体験し、サイト内に共有したリアルな「おでかけプラン」をスマートフォンなどで見ながら、ガイドブックには載っていない穴場スポットなどを巡ることができます。



## ■ 三浦半島エリア勉強会

三浦半島に点在する京急グループの保有資産を活用し、三浦半島全体の活性化を実現するには、京急グループ各社の現場社員の意見やアイデアが必要不可欠です。このため、2016年度に「三浦半島エリア勉強会」をスタート。20～30代の若手・中堅を中心としたメンバーで、定期的に各社同士の意見交換を行い、今までにないさまざまな施策を検討・実行しています。

### 三浦半島エリア勉強会×東京大学「三浦半島コンセプトブック」

「三浦半島エリア勉強会」では、三浦半島のコンセプトをつくり上げることを目的に、2017年5月から東京大学とともに、フィールドワークやワークショップを重ねてきました。その共同研究の成果として、再認識した三浦半島の魅力をまとめたのが「三浦半島コンセプトブック」です。

京急グループでは、今後、コンセプトブックに沿った形で「都市近郊リゾート三浦の創生」実現に向けた取り組みを実施していきます。



## ■ 観音崎京急ホテルで2つのサービスがスタート

### 車中泊施設「RVパーク京急観音崎」をオープン

2019年6月15日に、横須賀市内では初のRVパークとなる「RVパーク京急観音崎」を温浴施設SPASSO(スパッソ)駐車場にオープンしました。1名分のSPASSOの入浴がセットになったパーキングプランを販売し、RV車ユーザーに向けて、アクセスのよい三浦半島各地の過ごし方を提案、活性化を図ります。



### 「CAMPING OFFICE KANNONZAKI」サービス開始

2019年7月11日に(株)スノーピークビジネスソリューションズと連携し、「CAMPING OFFICE KANNONZAKI」の営業を開始しました。東京湾を一望する非日常の自然環境を感じることでできる観音崎京急ホテルの屋外スペースで、企業研修やオフサイトミーティングを行うプランを共同で開発、販売します。



### Column

#### テレビCM「三浦半島 for YOU篇」を放送

創立120周年イヤーも終盤を迎え、今後も京急がお客さまにとって身近で愛される存在であり続けたいという想いを込めて設定した「KEIKYU for YOU」をコンセプトに、2019年7月から新たな広告キャンペーンを開始しました。その第1弾として、女優の黒島結菜さんをイメージキャラクターに起用したテレビCM「三浦半島 for YOU篇」を放映。さらに沿線を中心に掲出するグラフィック広告やキャンペーンサイトにも展開し、グルメや絶景など、都市近郊リゾート・三浦半島の魅力を広く発信しました。



## 地域とともに歩む

都心から横浜・三浦半島まで地域ごとにさまざまな魅力があふれる京急沿線。京急グループでは、地域の特性や市場動向をとらえ、事業展開に生かすことで、地域の魅力向上と課題解決に努めています。これまで以上に地域との連携を強め、お客さまが求めるサービス・商品を提供していきます。

## ■ 「スマートモビリティ等を活用したまちづくりに関する連携協定」を締結

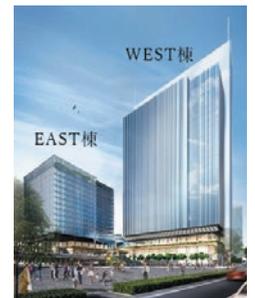
京急電鉄と横須賀市、(株)NTTドコモは、2019年1月24日に「スマートモビリティ等を活用したまちづくりに関する連携協定」を締結しました。研究開発機関の集積地である「横須賀リサーチパーク(YRP)」の特徴を生かし、横須賀市内において、スマートモビリティを活用した社会課題の解決や新たなビジネスの創出を図り、地域の活性化などを推進していきます。2019年下期には、(株)NTTドコモのAI運行バスを用いて、京急ストアや横須賀市の公共的施設を巡回するお買物送迎車の実証も行う予定です。

## ■ 横浜市南部沿線まちづくり

2018年7月、京急電鉄と横浜市は、京急沿線の横浜市南部地域において、将来を見据えた沿線地域の魅力向上に向けたまちづくりに協働して取り組むため、「京急沿線(横浜市南部地域)における公民連携のまちづくりの推進に関する連携協定」を締結しました。産官学民が連携し、富岡西・能見台圏では地域の皆さまとのワークショップやモビリティの実証実験などを実施し、金沢区心部では将来まちづくり構想を検討しています。

## ■ 「みなとみらい21中央地区53街区」の事業予定者に選定

交通利便性が高く、また地区内の重要な歩行者ネットワークである「グランモール軸」と「キング軸」が交差する結節点に位置し、みなとみらい21中央地区の中で新たな核となる53街区が公募され、京急電鉄ほか3社が、その開発事業予定者に選定されました。今後は高品質なオフィスを中心に、商業施設、ホテル、賑わい施設、オープンインベーション施設など多様な空間を有した2棟のビル(WEST棟・EAST棟)で構成する大規模複合ビルを開発。さらに、本計画がグランモール軸を整備し、横浜駅からベデストリアンデッキでアクセスすることが可能となります。エリアの新たな価値を生み出し、みなとみらいの魅力とブランドを国内外へ発信していきます。



## ■「2019 BE STRONG at Oppamaキャンペーン」を展開

横浜DeNAベイスターズのファーム施設が追浜公園内に新設されたことから、京急電鉄、横須賀市、(株)横浜DeNAベイスターズは、2018年11月に、スポーツを核としたまちづくりを進め、横須賀を魅力あふれるまちにすることを目的とした「三者連携に関する基本協定」を締結しました。2019年3月19日から「2019 BE STRONG at Oppama キャンペーン」を展開し、7月14日からは、第2弾として追浜商店街限定オリジナルグッズ販売、およびキャンペーンオリジナル選手カードプレゼントを実施しました。



## ■産学官連携で、「電動小型低速車」の実証実験を開始

2018年7月に、横浜国立大学と締結した「産学連携の協力推進に係る協定」および、横浜市と締結した「京急沿線(横浜市南部地域)における公民連携のまちづくりの推進に関する連携協定」の2つの協定に基づき、交通課題を抱えた地域を有する横浜市金沢区富岡西エリアにて、10月から11月にかけて、「電動小型低速車」の実証実験を行いました。“優れた登坂力”“小型”といった「電動小型低速車」の特徴を生かし、急勾配な坂の移動を補助するルートと、地形的制約により、既存のバス路線が運行できないルートで定時定路線の循環運行を行い、地域交通課題解決に向けた取り組みを行いました。



運行に使用した「電動小型低速車」

## ■神奈川県と「SDGs推進に係る連携と協力に関する協定」を締結

2019年1月22日、国による「SDGs未来都市」および「自治体SDGsモデル事業」の両方に都道府県として唯一選定された神奈川県と「SDGs推進に係る連携と協力に関する協定」を締結しました。これは、SDGsの達成に向けて緊密な相互連携と協働による活動を推進し、地域のニーズに迅速かつ適切に対応し、県民サービスの向上および地域の活性化を図ることを目的とした協定で、「かながわプラごみゼロ宣言」と連携し、マイクロ・プラスチック問題に取り組んだり、三浦半島地域の活性化、健康長寿に向けた未病改善、ともに生きる社会づくり、エネルギーの地産地消など、さまざまな取り組みを実施しています。



「かながわ SDGs × けいきゅん」デザインロゴ

## 基幹たる交通事業の基盤強化

交通事業においては安全・安定輸送を継続するとともに、ホームドア設置などで駅ホームにおけるさらなる安全性の強化を図ります。また、「京急線アプリ」などを通じて、京急線をより快適に利用できる情報・サービスを提供しています。

### ■主要駅にホームドアを設置

2010年に京急線初となるホームドアを羽田空港国際線ターミナル駅に導入し、2018年度に羽田空港国内線ターミナル駅に設置しました。

今後は2020年度までに京急蒲田駅、京急川崎駅、横浜駅、上大岡駅において「ホームドア」を設置するとともに、「内方線付き点状ブロック」や「固定柵」の整備を進め、駅ホームにおけるさらなる安全性の強化を図ります。



京急蒲田駅に設置しているホームドア

### ■「京急線アプリ」がバージョンアップ

ダイヤ乱れ時などに、駅構内の混雑状況をタイムリーに確認することができる「駅改札混雑状況(駅視-vision)」や、他社線への乗り換えが可能な駅においては対象の他社線アプリと連携して、他社線の列車走行位置や時刻表を確認することができる「他社線連携」機能を追加しました。

※駅視-visionは、東京急行電鉄(株)(2019年10月1日より、東急電鉄(株))の登録商標です。



アプリ起動画面

駅改札混雑状況(駅視-vision)

鉄道会社公式スマートフォンアプリ10社連携

### ■燃料電池バス「SORA」導入

京浜急行バスでは、2019年2月25日に水素と空気中の酸素を化学反応させて発電し、発電した電気で走行する燃料電池バス「SORA」を民間のバス会社では初めて導入し、3月1日より大井町駅西口〜お台場地区で運行を開始しました。「SORA」は走行時にCO<sub>2</sub>などの環境負荷物質を一切排出しないため、非常に環境に優しい車両です。また、環境性能以外にも視界支援カメラシステムや急発進を抑制する加速制御機能などを備えた、人にも優しいバスになっています。



燃料電池バス「SORA」

## 賃貸事業・マンション分譲事業の戦略的展開

京急グループでは品川・羽田と連携した開発を行い、街づくりの核となる賃貸事業・マンション分譲事業を展開することで、交通事業に並ぶ柱へ成長させます。また、販売のみならず、管理、リノベーション、リフォーム事業などを強化していきます。

### ■ 賃貸物件の取得・開発

積極的な物件取得を推進し、新たな収益基盤を確立していきます。2018年3月には、SPCを通じて大規模オフィスビル「芝パークビル」の信託受益権を取得しました。



芝パークビル

### ■ 既存中古ストックの利活用

豊かな沿線、かつ安全・安心なまちづくりを進めるため、既存の中古ストックの利活用を推進し、空き家転貸サービスの「カリアゲ京急沿線」の展開や、横浜市立大学・横浜市との産官学連携の空き家活用を進めています。

また、Rバンクは、空き家をシェアハウス化するリノベーションや、企業が保有する住宅を一般向け集合住宅にリニューアルする事業を推進しています。



リノベーション前



リノベーション後

### ■ 海外不動産事業の展開

インドネシア共和国ジャカルタ郊外で大規模都市開発が進められているBSD (Bumi Serpong Damai) 地区において、戸建住宅および商業施設(店舗付住宅)を複合開発する事業へ参画しています。



さらに、他社と共同で、「PT Keikyu Itomas Indonesia」を設立し、ジャカルタに近いシマトパンタンジュンバラット地区において、大規模複合開発計画に参画し、海外での分譲マンション事業を展開。海外で初めて当社ブランド「PRIME」を冠した、29階建てタワーマンション「SOUTHGATE PRIME TOWER」を現在販売しています。



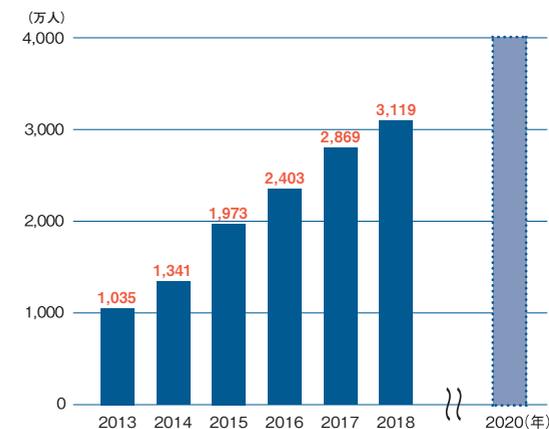
大規模複合開発計画地区「SOUTHGATE」完成予想イメージ

## 訪日外国人需要の取り込み

### ■ 訪日外国人数の増加

訪日外国人数

2018年の年間訪日外国人旅行者数は、過去最高の3,119万人(前年比約8.7%増)を記録しました。日本政府は、訪日外国人数を2020年に4,000万人、30年には6,000万人に増やす方針で、今後もさらなる訪日外国人の増加が見込まれます。羽田空港国際線ターミナル駅の乗降人員も年々増加しているほか、「京急ツーリストインフォメーションセンター 羽田空港国際線ターミナル駅」も多くの外国人旅行者に利用していただいています。



※日本政府観光局(JNTO)調べ(2020年は政府目標)

### ■ インバウンド施策の強化

#### おもてなしガイドを活用した多言語案内サービス

2018年7月、鉄道会社として日本で初めて「おもてなしガイド」を活用した多言語案内サービスを開始しました。京急線各駅(泉岳寺駅を除く)の改札口付近にて、駅ホーム(番線)案内をアプリに多言語表示(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語)の4か国語に対応)するほか、運行情報や路線図、お得なきっぷ、無料Wi-Fiの利用方法等の必要情報を提供しています。



日本語での表示画面

英語での表示画面

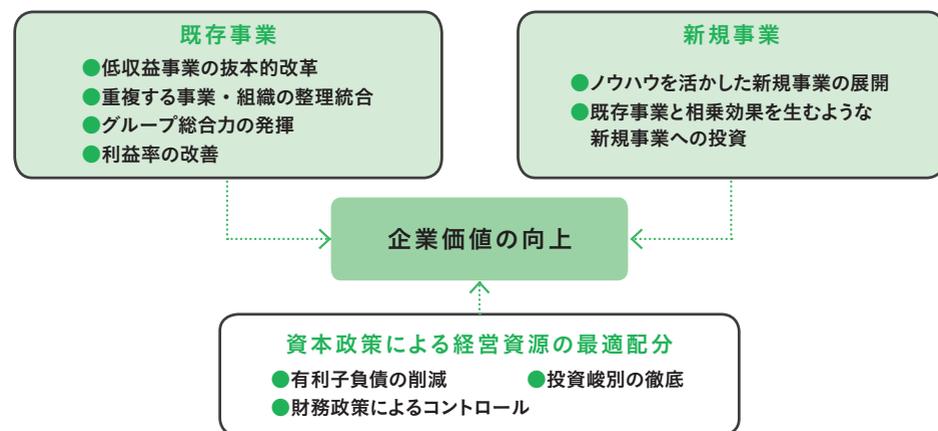
#### 海外代理事務所の開設

2016年に台湾、2017年にタイとシンガポールに、京急のインバウンドPR業務を代行する事務所(海外レップ)を開設しています。海外レップと連携することで、現地の流行やニーズに即した情報発信が行えるようになり、これまで以上に効果的なPRが可能になりました。



## 筋肉質な事業構造への変革

引き続き事業再編・選択と集中の徹底を図り、京急グループの「稼ぐ力」のさらなる向上との両輪で、企業体質の強化、財務体質の健全化に取り組みます。



## すべてはお客さまのために

- 1 常にお客さまの声を企業経営に取り込む仕組みを確立し、お客さま満足度の向上に努めます。
- 2 お客さま志向の徹底に向けた人材育成と人事制度の改革に取り組みます。
- 3 マーケティング力、プランニング力を向上させ、ワンランク上のサービス・商品の提供を目指します。
- 4 グループ各事業の連携により、お客さまに提供する価値の向上と事業機会の拡大を図り、京急ブランドを浸透させていきます。

